

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

7
JULY 2024

未来へすすめ！

令和7年4月1日採用

大津町役場 **職員募集**

Public relations
OZU TOWN

広報 おおづ 2024 7

発行・編集 大津町・総合政策課
〒869-1129 熊本県道大津大津123番地
TEL.096(293) 3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 印刷株式会社
※ 広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物性インクを使用しています。

UD FONT
見やすくて読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



◀秋の販売会&ワークショップ
蔵の外では農家さんの野菜販売も実施。町の住民のほか町外からも多くの人が集まった。ハロウィンに合わせ、仮装して集まる子どもたちも。

clozu-up
Ozu-jin
クローズアップ 大津人



「なんかあったらおいで」
そんな場所を目指して

みやざき
宮崎 まさとさん(下町)

国登録有形文化財「大田黒家住宅」の蔵をリノベーションしたカフェ「結乃蔵」のオーナー。手作りのお弁当販売やマルシェの出店・開催など、地域住民とのつながりの場を提供する宮崎さんにクローズアップした。

カフェを始める前は、営業や運転手、仕出し屋や工場に勤務していた宮崎さん。家のこととは女性がするものだと思っただけだった。シングルファザーとなつてからは、明日の弁当も作れない。そんな日々を過ごしていた時、息子の同級生の母親から「お弁当、ついでに作ってあげるよ」と声を掛けてもらった。子どもとの生活の中で「仕事して、家事をして、育児もする。女性って本当にすごい。」そう実感した。

働くお父さん、お母さんの応援をしたい。そんな思いから結乃蔵をスタートさせた。蔵を見つけたのは偶然の出会いから。そして蔵が国登録有形文化財になることは後から聞いた話だった。近所の人や前職の知り合いに助けられ、今では毎日のように近所の人々が顔をだし、学生が気軽に勉強をしに来るような、自然と人が集まる場所になった。「昔は地域みんな子育てをしていたと思いますが、いつの間にかそういった風習はなくなっていました。迷惑を掛けずに生きていける人なんていない。地域みんなで協力し、子育てができる社会を目指したいです。この場所が、そのきっかけとなればと思っています。」人とのつながりを大事にする宮崎さんのお店は、今日も誰かの拠り所となっている。

つづきの声

クローズアップ大津人の宮崎さんにお話を伺うため、結乃蔵にお邪魔しました。国登録文化財の蔵ということ、大層古い建物なんだろうと思っていたのですが、いざ到着したらモダンでおしゃれな蔵になっていたびっくりしました。宮崎さんのフランクな人柄と、店内を吹き抜ける風が気持ちよくて、長居してしまいました。文化財ゆえにリノベーションに制限が掛かり、苦労したようです。しかし、素敵なお店に変貌を遂げました。「たまにたまですよ。」そんなことをおっしゃっていましたが、きっと宮崎さんの人柄が事を上手く運んでくれたのだと思います。(M・S)

